汎用性の高いペアレント・トレーニングの開発研究

田中　真衣・鈴木　健史*

研究実績の概要

昨年度までに、SomLic ペアレント・トレーニングを開発し、そのプログラムを実施することができるファシリテーターを養成するために「SomLic ペアレント・トレーニング　ファシリテーター養成講座」を開発した。最終年度である2022年度は、以下３点から研究を進めた。①ファシリテーター養成プログラムの修正と補強、②ファシリテーター養成講座のトライアル実施、③SomLic ペアレント・トレーニングの普及である。３点ともに計画通り研究を進めることができた。

養成講座参加者は合計14名だった。参加者の内訳は、20代2名、30代５名、40代３名、50代４名であった。保有資格は、社会福祉士１名、保育士10名、幼稚園教諭４名、介護福祉士１名、医師２名、助産師２名、小学校教諭１名であった（延べ人数）。経験年数は、20年以上が３名、10年以上20年未満が６名、5年以上が５名であった。

講座に期待することは、「根拠を持ってお伝えできるようになりたい」、「ペアレントトレーニングの理解を深め、子育て支援のヒントを得る」、「育児相談に応じるにあたり実践的に活用できる技術習得」、「保護者支援の技術習得」、「保育所の現場で保護者支援に繋げられる学になると嬉しい」、「スキルアップと新たな学び」、「子育てひろばなどで活用できるようになりたい。自分の引き出しを増やしたい」、「保育士として子どもへの向き合い方や親との接し方をより良くしたい」というものだった。受講者の受講動機から、必ずしもすぐにペアレント・トレーニングを実施したいということだけではなく、保育士等現場専門職者の保護者支援のスキルアップの役割を果たしていることが考えられる。現場の児童福祉等従事者のニーズから、今後のファシリテーター養成講座のあり方を考えていく視点を得ることができた。

今後の検討課題としては、受講募集をした際に、他県の方からオンラインで実施してほしいと問い合わせがあったことだった。目的から鑑みてもオンラインに対応できるようにしておく必要が考えられるが、一方でグループ体験をファシリテーターが経験しないまま実際にプログラムを実施することは考えにくいため、今後も検討していく。

３点目のプログラムの普及については、成果報告を兼ねて行うことができた。雑誌「小児内科」（vol.54 No.11 pp.1892-1894）において「子ども虐待予防のための SomLic ペアレント・トレーニングの普及」と題して発表する機会を得た。また、2023年7月に「感情にふり回されない子育て　親子が変わる SomLic ペアレント・トレーニング」と題した本が出版されることとなっている。研究成果や次回の養成講座やフォローアップ講座情報は、更新したホームページにて発表し続ける。また、実践的な養成講座のため、2023年度以降も現場の専門職者に養成講座を毎年実施していく予定である。

＊客員研究員　東京立正短期大学